

SONY

ソニーが（木くずで）、はじめた未来。

Noshiro Biomass Power Plant | fact 01
Akita, Japan



For the Next Generation

地球の未来を、グリーンに。ソニーのエコロジ

CO₂を増やさない、間伐材による発電。 森を育てる発電に、私たちも参加しています。

木質バイオマス発電所からグリーン電力を購入しています。ソニーと木くず、ちょっと意外な組み合わせと思われるかもしれませんが、木くずは私たちの環境活動にとって大切なパートナーです。ソニーでは、CO₂を増やさないグリーン電力*を積極的に導入しています。秋田県能代市にある「能代バイオマス発電所」も、グリーン電力の供給元のひとつ。バイオマスとは生物由来の有機物が原料となる再生可能な資源のことで、林業が盛んなここ能代の発電所では製材所が出る端材や廃材などの木くずを燃やして発電しているのです。燃やすと、CO₂を発生しますが、木材は成長過程で光合成によりCO₂を吸収しており、ライフサイクル全体で見ると大気中のCO₂を増加させないエネルギーとして注目を集めています。

*風力や太陽光、バイオマスなど、結晶シリコンも排出しないエネルギーにより発電された電力



ソニーが、森づくりとエネルギーづくりを、つなげています。私たちが目をつけたのは間伐材の回収でした。間伐は、森の健全な育成のために必要なこと。しかし、能代では間伐しても運び出す運搬費用がかかるため、森に放置されたままの間伐材が増えつつあったのです。そこでソニーがバイオマス発電所までの運搬費用を支援することを秋田県に提案。これによって間伐がより進み、能代の森を育てながら、同時に間伐材でグリーン電力をつくる仕組みができたのです。そして販売会社であるソニーマーケティング、物流会社のソニーサプライチェーンソリューション、ソニー銀行も、4月からグリーン電力を100%使用しています。ソニーが提案する新しい仕組み「Green Energy Link」を、つぎつぎと全国へ。ソニーのつくる未来が、はじまっています。



ソニーはWWF(世界自然保護基金)が推進するクライメイト・セイバーズ・プログラムに参加し、CO₂をはじめとする温室効果ガスの排出量を絶対量で減らす目標を掲げて、第三者機関の検証のもとに実施しています。

www.sony.co.jp/eco